

SS 情報探究

SS 情報探究「テーマ探究」・全体説明

1 授業の目的

既習の学習事項（問いの設定、KJ法、社会科学・人文科学探究技法、ミニ探究、情報リテラシー等々）で身に着けたスキルを利用しながら、自身の興味・関心に基づいたテーマ設定の基で、以下にある一連の探究リテラシーを学ぶ。

- ・テーマ設定・客観的・学問的な問いを立てて、検証可能なテーマを設定する。
- ・考察と討論・徹底的に「問う」「考える」「議論する」習慣を身につける。
- ・情報活用・適切な情報を十分に活用する（文献収集、データ処理）。
- ・方法・適切な方法や態度で探究活動を行う（研究計画、実証的態度、論理性）。
- ・表現・研究結果や見解を的確に表現して、わかりやすく発表する。
- ・創出・自分たちなりの新たな見解、結果、法則を得る。

2 研究の内容 次のうちいずれかを選択する。

実験研究・・・理科分野 調査研究・・・人文社会分野、数学・コンピュータ科学分野

3 今後の日程

*今回（第14回）

- ・全体説明、人文社会分野説明、数学・コンピュータ科学分野説明、理科分野説明、研究分野とテーマを考える。（場所は2クラス一緒に視聴覚室にて）

・10/19(月) **1コマ目** ◇E組（視聴覚室）全体説明5分程度（菅野）、社会10分、国語10分、英語10分、数学・コンピュータ科学15分

◇F組（PC室）全体説明5分（能山）、物理10分、化学10分、生物10分、地学10分

2コマ目 生徒は固定 ガイダンスをする教員が入れ替わる 最後に予備調査

- ・EF組以外はテスト返却が25分程度入る。

1コマ目 ◇A, C, G（視聴覚室）テスト返却25分、全体説明5分、社会7分、国語7分、英語7分

◇B, D, H（PC室）全体説明5分、物理7分、化学7分、生物7分、地学7分、数学・コンピュータ科学14分

2コマ目 生徒は固定 ガイダンスをする教員が入れ替わる 最後に予備調査

*次回（第15回）・・・研究分野と班の決定、研究計画作成（班員と班数、人数については条件あり）
～調査系各教科4班、実験系各3班まで、数学・コンピュータ科学3班まで（共に1班上限は4名まで）～

*以降・テーマ探究の活動 … <実験研究> 第一多目、視聴覚室

<調査研究> 視聴覚室、HR教室、PC室（図書室）

*12月以降（予定）に中間報告を行い、班でポスターを作成する。

4 留意点

- ・興味あることに取り組んで、研究を楽しむ。
- ・学問的な問いを立てて、客観的に検証可能なテーマを設定する。
<実験研究> 実験で検証することが可能 <調査研究> 資料やデータで検証することが可能
- ・研究対象に従って、適切な検証方法やアプローチを考える。
- ・定量的な検証を積極的に取り入れる。
- ・一定の成果を上げるためには時間と努力が必要（放課後等に研究を行う場合は要相談）。
- ・調べ学習で終わらせない。独自の見解を創出して、個性的な研究にする。
- ・水曜7限の探究力育成授業の内容も積極的に活用しよう。

5 評価の観点

- ・学問的な問いを立てているか ・徹底的に考察、討論しているか ・情報を適切に活用しているか
- ・適切な方法で研究しているか ・論理的かつ的確に表現しているか ・独自の見解を創出しているか

テーマ探究・人文社会分野説明

1 授業の目的

- 人文科学や社会科学の研究に親しむ。

人文科学や社会科学に関するテーマを自ら設定し、文献や先行研究を参考にしながら、テキストの批判的読解や現象の分析、調査を行うことで、人間や社会の本質に関する考察を深め、独自の見解を導く。

2 人文社会科学とは

- 人文科学 Humanities ⇒ 人間（性）・人間の行動（精神）・人間の作品（文化）

- 社会科学 Social Science ⇒ 社会（仕組み・現象）

哲学・美学・宗教学・歴史学・地理学・文化人類学・民俗学・文学・言語学・教育学・心理学・法学
政治学・経済学・社会学・人間科学・国際関係論・地域文化研究・表象文化論・コミュニケーション論・ジェンダー論

3 人文社会科学の研究手法

- テキスト読解・現象分析（多角的に捉える方法としての機能分析、比較的視点、横断的視点）
- 情報検索（文献、データ収集）
- 調査・フィールドワーク（アンケート、インタビュー） ・実験

4 研究例

(1) 人文系研究例（テキスト読解）

- 文学的に読解する作品を決めて精読する。（例：芥川龍之介「羅生門」）
- 問い（と仮説）を立てる。（例：下人の〇〇の行動はどのような心理だった？ たぶん△△ではないか？）
- 問い（と仮説）をもとに、テキスト（＝テキスト）を深く読むのに役立つような視点を定める。
（例：心理学の視点から下人の心理を探り、テキスト理解を深める）
- 根拠資料となる先行研究や文献を探して読む。（仮説に根拠を与える。）
（例：「□□」や「××」（参考文献）を根拠に、下人の行動には△△の心理が働いていると言える）
- さらに発展させ、作品全体についても論じるとなお良い。
（例：△△心理は現代人にも通じるものであり、「羅生門」が時代を超えて読まれ続ける理由の一つだろう。）

(2) 社会系研究例（現象分析） <教科書 155 ページ>

- テーマを設定する（フードファディズムはなぜ生じるのか？）
- 先行研究を調べる（マスメディア起因説）マスコミや書籍等の情報を信じ、バランスを欠いた偏執的で異常な食行動をとること
- 実体を把握する（過去の事例を調べる、アンケート調査を行う）
- 仮説を立てる（消費者の心理的な要因）
- 検証する（要因特定、データ収集、アンケート調査、データ分析）
（第5回 社会科学 探究技法で行った「因果関係と相関関係を混同しない」を思い出して）

5 留意点

(1) テキストの選択

- テキストは全体を研究対象とする（小さいテーマでも一部を読んだだけでは研究とはいえない）
- 未読のテキストよりは既読のテキスト（様々な解釈が出てくる可能性がある）

(2) テーマの絞り込み

- メインは現象の分析（いきなり開発ではなく、まずは解明：「売れる～」→「なぜ売れたのか」）
- 仮説として要因が特定できるテーマ（要因が特定できると方法論が見えてくる）

(3) 徹底的な読解と分析

- 独自性も論理的整合性もすべては多角的・批判的な読解と分析から

テーマ探究・人文社会分野説明

1 授業の目的

- ・人文科学や社会科学の研究に親しむ。

人文科学や社会科学に関するテーマを自ら設定し、文献や先行研究を参考にしながら、テキストの批判的読解や現象の分析、調査を行うことで、人間や社会の本質に関する考察を深め、独自の見解を導く。

2 人文社会科学とは

- ・人文科学 Humanities ⇒ 人間（性）・人間の行動（精神）・人間の作品（文化）
- ・社会科学 Social Science ⇒ 社会（仕組み・現象）
哲学・美学・宗教学・歴史学・地理学・文化人類学・民俗学・文学・言語学・教育学・心理学・法学
政治学・経済学・社会学・人間科学・国際関係論・地域文化研究・表象文化論・コミュニケーション論・ジェンダー論

3 人文社会科学の研究手法

- ・テキスト読解・現象分析（多角的に捉える方法としての機能分析、比較的視点、横断的視点）
- ・情報検索（文献、データ収集）
- ・調査・フィールドワーク（アンケート、インタビュー） ・実験

4 研究例

(1) 人文系研究例（テキスト読解）

- ・文学的に読解する作品を決める。（例：芥川龍之介「羅生門」）
- ・思いつきの自説を考える。（例：下人の〇〇の行動はどのような心理だった？ たぶん△△ではないか？）
- ・自説を基にテキスト深読に役立ちそうな視点を定める。（例：心理学の視点から下人の心理を探り、テキスト理解を深める）
- ・自説に対する根拠資料となる先行研究や文献を探して読む。ここでは、思いつきレベルに過ぎなかった自説に根拠を与え、誰もが納得できるようにするために行う。（例：「□□」や「××」（参考文献）を根拠に、下人の行動には△△の心理が働いていると言える）
- ・さらに発展させ、作品全体についても論じるとなお良い。（例：△△心理は現代人にも通じるものであり、「羅生門」が時代を超えて読まれ続ける理由の一つだろう。）

(2) 社会系研究例（現象分析） <教科書 155 ページ>

- ・テーマを設定する（フードファディズムはなぜ生じるのか？）
- ・先行研究を調べる（マスメディア起因説）マスコミや書籍等の情報を信じ、バランスを欠いた偏執的で異常な食行動をとること
- ・実体を把握する（過去の事例を調べる、アンケート調査を行う）
- ・仮説を立てる（消費者の心理的な要因）
- ・検証する（要因特定、データ収集、アンケート調査、データ分析）
(第5回 社会科学 探究技法で行った「因果関係と相関関係を混同しない」を思い出して)

5 留意点

(1) テキストの選択

- ・テキストは全体を研究対象とする（小さいテーマでも一部を読んだだけでは研究とはいえない）
- ・未読のテキストよりは既読のテキスト（様々な解釈が出てくる可能性がある）

(2) テーマの絞り込み

- ・メインは現象の分析（いきなり開発ではなく、まずは解明：「売れる～」→「なぜ売れたのか」）
- ・仮説として要因が特定できるテーマ（要因が特定できると方法論が見えてくる）

(3) 徹底的な読解と分析

- ・独自性も論理的整合性もすべては多角的・批判的な読解と分析から